



謹 賀 新 年

本 年 も
よ ろ し く
お 願 い し ま す

さんわ便り

第169号
発行所
さんわグループ
編集 広報部
大分市森町

最近本で「割れ窓理論」という言葉を見つけて面白いなと思いました。意味は、小さなモラルの低下を放っておくと次第にそれがだんだん大きなモラル低下や犯罪に繋がっていく…ということ。たとえばあるところに窓が壊れたままで放っておかれていた建物があるとします。するとその建物自体が「この窓が割れた建物周辺には誰も関心を払ってませよ」というサインを発するようになり、空き缶やゴミのポイ捨てが増えるようになる。

なるほどなと思います。でもこれって身近な場所にもありますよね。たとえば山間部なんかにはきなり家電製品などのゴミの山がある場所。あれも最初は一部の人間が小さなゴミを捨て始めたのがきっかけなんだと思います。それを最初の段階できちんと取り除くことができなかったから、そのゴミ自体がゴミを呼んだのでありましよう。どんなことでも最初の掃除や整理が大切なんでしょうね。掃除や整理が苦手な私には大変なことになる理論であります。さて、お釈迦様のお弟子さんにチューダ・パンダカ(周梨槃特)という方がいました。

パンダカは大変物忘れがはげしく、自分の名前も満足に覚えることができず、名札を常に着けていたほど。周りのお子さんからもいつもバカにされていました。しかし、お釈迦様は決してパンダカを見捨てたりはしません。お釈迦様はパンダカに一本の箒を渡してこう言いました。「塵を払え、垢を除かん。と言いながら、この箒でしっかりと掃除をきなさい。」パンダカはお釈迦様に言われた通り掃除を続けました。決して掃除をやめることなく、何年も何年も一生懸命に…。そして、ある日気づきました。「そうか、塵を払え、垢を除かん。というのは私の心を清浄にせよということなんだ!」と。箒を放棄することなく精進して、法喜に達したのです。パンダカはその後、有名な仏弟子となりました。

(※ちなみに、パンダカの御墓から生まれた食物というのが、茗荷(ミョウガ)だそうであります。)

名を荷ったというところからついたそうですが、食べ過ぎると物忘れをするようになるという俗説があります。掃除除くと書いて掃除。掃くのは、塵か、垢か、煩惱か。毎日の何気ない、一つ一つの所作を大切にしたいものです。仏法にふれるとは身辺の何でもないことをただ心をこめてすること



榎本栄一

心を安んずるに、これより地(ところ)あることなし・・・親鸞聖人

ホームページは「お墓のさんわ」で検索してください。

日出店：速見郡日出町川崎会下(空港道路入口) TEL (0977) 72-6415
 三重店：豊後大野市三重町赤嶺1041(トリアル横) TEL (0974) 22-3301
 森町店：大分市横尾2733-1(大東中学入口) TEL (097) 524-6525

「小さな存在、大きな喜び」

一心寺 釋 健雄

(前田健雄)

まんまるお月さまを子どもと眺めていた時でした。「お父さん、月と地球はどっちが大きいの?」「地球の方が大きいんだよ」「じゃあ太陽は?」「太陽の方が大きいね」「どのくらい大きいの?」「たしかあ…」もう自分の記憶が怪しくなってきたので、おもむろにスマートフォンを取り出して調べ始めました。

地球の直径は約1万2700km。太陽の直径は約139万2000kmで、地球の約109倍の大きさなのだそう。いったいどのくらい大きなのか、

見当もつきません…。しかし宇宙には、さらに大きな星があるそうです。

それはなんと、太陽の直径の1900倍もの大きさの星です。驚きました。そんな大きな星と比べたら、地球は豆粒のような小さな点にすぎません。その地球にいる「私」は、点にも豆粒にもならないほどの大きさしかないんですね…。なんだか、日頃、大きな事だと思いついて不安に思っている事も、腹を立てている事も、私自身の存在もとても小さなことに思えてきました。

それと同時に、小さいけれども生まれてきた。そして私たちは、こうして出会うことができたという事実には大きな喜びを感じました。思わず

「お父さん、いつも小さい事で怒って、すまんあ…」と子どもに謝りました。

本当に大事なことを喜ばず、小さなことに執着してしまっていたなあ…。もったいないなあ…。とその瞬間は思うのですが、時が過ぎればまた元の自分に逆戻り…。なかなか喜びのままには生きられません。でも、だからこそ仏法を聴き続け、南無阿彌陀仏という仏さまの広く大きな世界に触れさせていただくことが大切なのでしょう。

真宗大谷派
名古屋教区30組

